

明治初年のドイツ医学の導入について

(14) (A. F. Bauduin)から学んだという共通の修業歴をもっていた。二

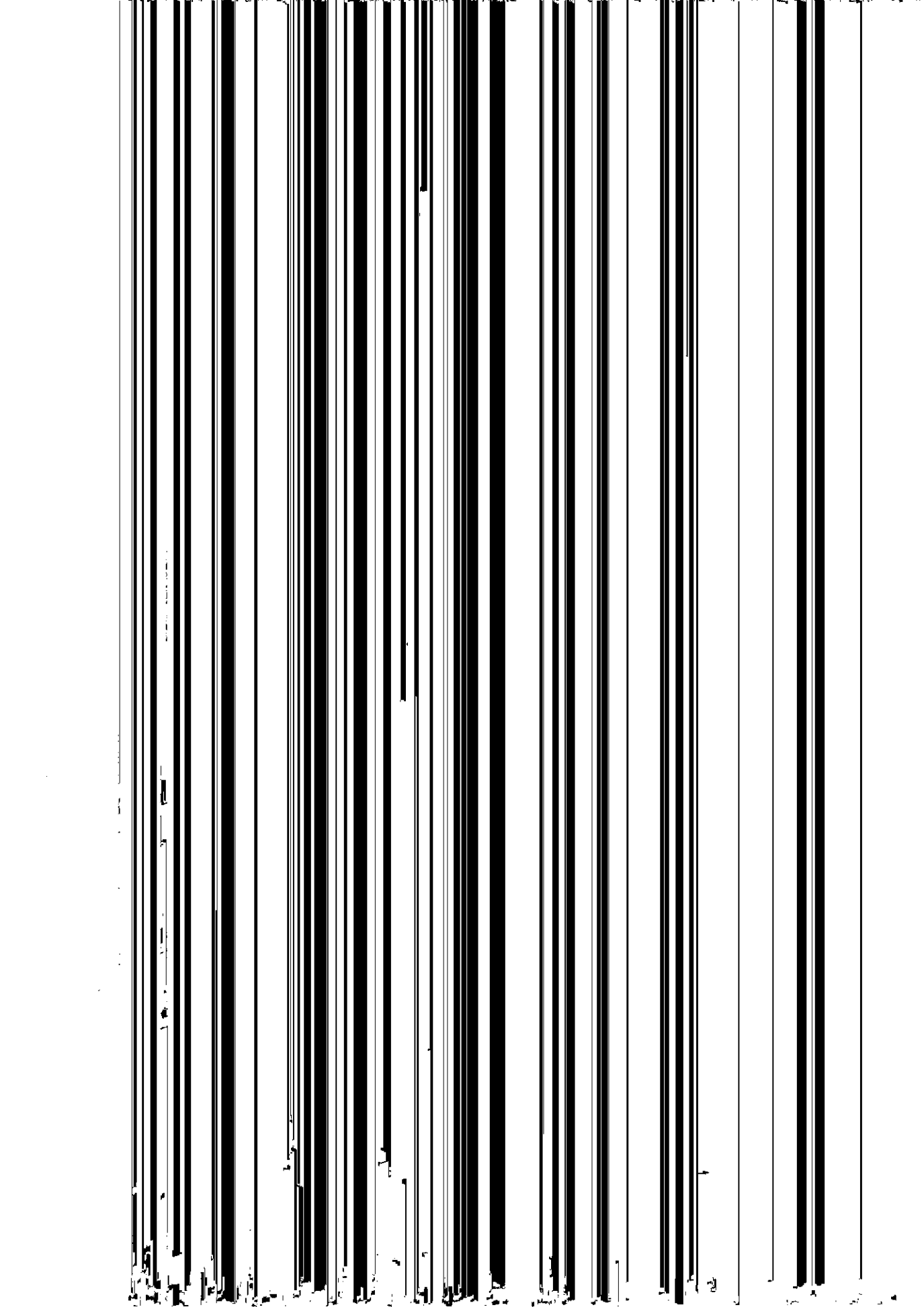
どの国が最も進んでいるかと質した。石黒の記述によると、⁽¹⁵⁾

ノボオカ巨の医学者市原直正にして、和極印た進歩をまて、未だ
それぞれ鍋島直正、松平慶永という参議の支持を受けていた。二人の

一之に對するフルベツキの答として、今日医学と言へば、独逸が宜しい。そ
の独逸でも何処が一番宜しいかと言へば、普魯西が宜しいとの明答を得た

たれおたれたれたし、耳はまゐる。しかしE.E.の「言」として「い」医はまゐる。

「E.E.の医はまゐりして世の「い」はまゐる。へからす。席は男のい席たるへき理」

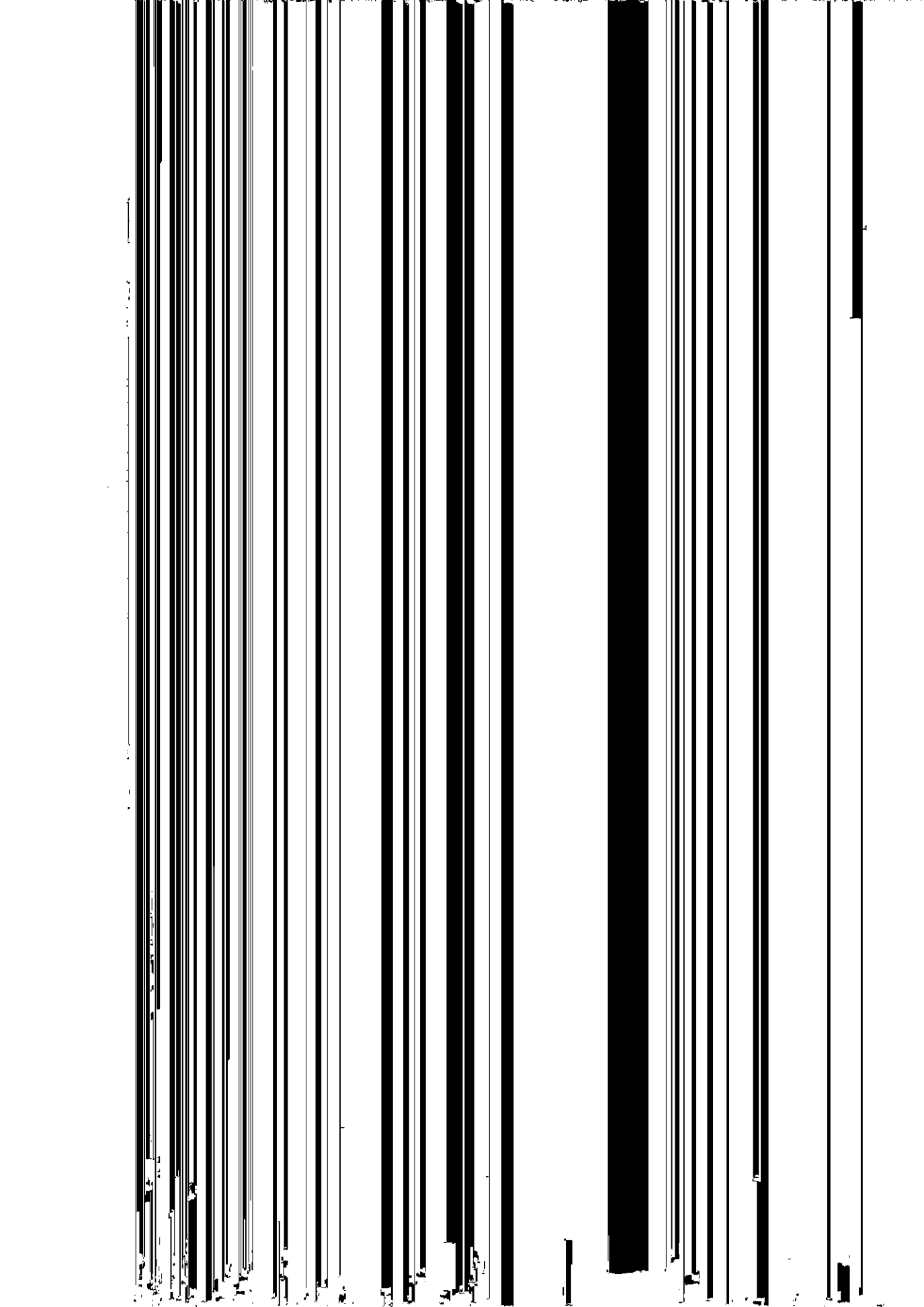


知っており、これに賛同するという内容である。

の全権を委ねられたプロイセン軍医レオポルト・ミュラーの本国政府

から開国へ」と題する第一章の「画期的な大変革」も報告書にはなく、

「王国一等軍医正ミユラー博士の江戸（東京）医学校創立に関する報告」(分)



マンだけでは医学校の陣容が不十分なので、教授さがしにベルリン大
学に赴いた。取りあえず、緊急に必要な生理・解剖の教授一名だけを
よぶ――ことになり、デーニツに白羽の矢を立てた。しかしデーニツがな

には佐藤進の名だけしかないが、七二年後学期(十月―翌年三月)に萩
原の名が現れる。七二年前学期(四月―九月)になると、池田、木脇、長
井、尾崎、大沢、原、橋本の名が出てくる。佐藤進はその後も引続き

かなか東京行を承知しないので、長与は萩原にデーニツと共に帰国し
面倒を見るように要請した。結局デーニツが折れて、萩原と同行する
ことになったわけである。しかし田中と萩原の密約を知ったミュラー

取請しているか、萩原の名は七二年前学期(四月―九月)まで
で消える。それはこの年の夏、デーニツの来日に同行して帰国したか
らである。

であり、その秘伝は口外しないことになっていた。学校に通うのは修行で足りない医学知識を補うためだけであった。だから外国人医師を長く引きとめておくことはできず、またその選択もいゝ加減だった。

して、心身共にしつかりした有能な者だけを残すことにした。

医学校には、当初教材や標本も外科器具も揃っていなかった。外科や眼科に不可欠の助手は大勢いたが役に立たなかった。試験しようと

結局ミュラーの任期中に病院の建築は実現しなかった。

旭日章が授けられた。学生たちは乗船のときまで真情をこめて盛大に

てあり、八月十七日付の領事館報告に、前回の一八八三年三月二日付の報告を添付するので返却してほしい」という断り書きがつい

に、五部門の日本式医学校(別課)を造り、ドイツ人教授の日本人助手たちを教師にあてた。日本式医学校を誕生させた自主路線の欲求は、七六年冬

本邦の海軍は、この大戦を通じて、その勢力を著しく伸張し、

とくに南洋方面において、日本の海軍は、従前のたしとむ大進出を遂げ、大躍進し

(三)のオムレーヘンの報告に、日本の海軍は、この大戦を通じて、著しく伸張し

から、熊本古城医学学校教師となり、北里塾三郎、緒方正彦、浜田玄暹

(36) Funk, Hermann 明治七年三月から十年二月まで東京帝国大学「科長」

とを考へ、明治十年片岡胡堂白移、明治十一年に片岡邦彦の「車籠」十二
年三月満期解約、同六月帰国した。

(29) 前掲(27)一一八頁

(30) 前掲(27)一二六頁 r(r)は一頁を二つに分けた右半分の部分

(31) 前掲(27)一七二頁

(32) Doentz, Friedrich Karl Wilhelm 一八三八―一九二二。ベルリン

前掲(27)一七二頁

(38) Holz, V. 明治四年一月から七年二月まで大学南校・東京医学学校予
科教師としてドイツ語を講ず。

(39) Wernich, Albrecht Ludwig Agathon 一八四三―一九六。明治七年十
一月から九年一月まで東京医学学校で内科講義、診療。ホフマンの後任、
ベルツの前任者。

温泉の効能を紹介。一九〇六帰国、一九〇八再び来日、勲一等授与。

(47) Martin, Georg 明治七年横浜司薬所雇、九一一年東京医学校(のち東京大学医学部)で化学、数学を講ず。

(48) Korschel, Oscar 明治八年十二月一十一年一月、東京医学校(のち東京大学医学部)で化学、数学を講ず。

(49) Tiegel, Johann Ernst 一八四九一八八九。明治十年一月一十六年

一月、東京大学医学部で生理学を講ず。十一月十月より十五年十一月ま

(50) Gierke, Hans Paul Bernhard 一八四七一一八八六。明治十年三月